

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島県経済農業協同組合連合会

品目：かんきつ「大将季（だいまさき）」

1. 輸出における現状と課題

【現状】

大将季とは、鹿児島県で不知火の枝変わりとして発見された品種で、不知火よりも紅色が濃く鮮やかな橙色をしているのが特徴である。豊かな果汁と甘みがあり、濃厚な味わいを楽しめ、糖度13度以上、酸度1%以下のもののみを「大将季」として出荷している。JA鹿児島県経済連は、エクスポートである全農インターナショナル(株)や九州農産物通商(株)を通じて、台湾の春節時期に合わせたきんかんの輸出に令和元年度より取り組んでいる。

【課題】

生産（製造）面：①台湾の残留農薬基準に対応した防除暦の策定。

②台湾のポジティブリストに対応した栽培方法の確立、及び現地の消費者ニーズに対応した高品質な大将季の生産・選別

③タイへの輸出における青果物の生産園地への登録

販売面：大将季の輸出拡大およびアジア圏における更なるかごしまブランドの認知度向上を図ること。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組み】

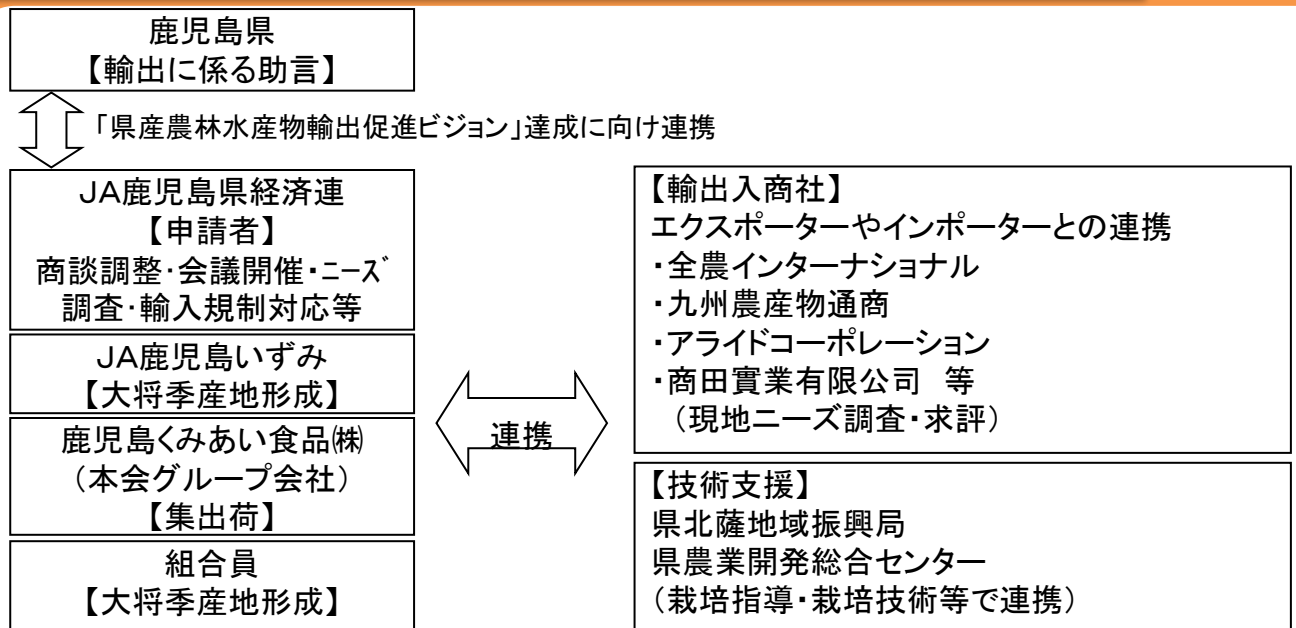
生産（製造）面：①令和5年度よりモデル農家の園場よりサンプリング・残留農薬検査を実施し、台湾向け防除暦の検討・作成

②生産者はもとより、鹿児島県や市町村等の自治体のほか、現地の消費者ニーズを把握できるエクスポート等とサプライチェーンの各事業者と連携した産地づくりを行う

③タイへの輸出における青果物のモデル生産園地の検討

販売面：春節時期は贈答用果実のニーズが高く、現地スーパーでは化粧箱入りでの販売展開が主流であることから、春節時期に合わせた出荷調整を行い、高級感のある化粧箱等で大将季のプロモーションを図ることで、アジア圏における大将季の認知度向上・販売拡大に取り組む。また、日本産果実（きんかん・りんご・いちご等）の取扱いも多く、日本産果実のニーズが高い台湾・タイを新たな仕向先として販路開拓に取り組んでいくこととする。さらに、香港・シンガポールに対し輸出を行っている既存の国内エクスポートとの連携強化を図り、アジア圏における消費者ニーズおよび現地インポーターが求める規格・価格帯・出荷時期等の情報収集を行い、それらの情報を基に既存の輸出先に対しても輸出を継続していく必要がある。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状（令和3年） （令和3年4月～令和4年3月）	目標年（令和7年） （令和7年4月～令和8年3月）
（産地） 出水地区 （JA鹿児島いずみ）	輸出額(千円)	364	4,500
	輸出量（kg）	600	7,000
	輸出先国	香港、シンガポール他	台湾、タイ、香港他
	生産量（kg）	648,000	648,000